

- 次期RSシステム（令和10年度運用開始予定）では、EBPMの更なる推進に向け、行政事業レビューシート等の質の向上と業務負荷の軽減の両立を目指し、**AI機能の導入を検討**。
- このため、**令和8年度**においては、**複数の府省庁等の協力**を得て、以下の**実証事業（AI実証）**を実施予定。

レビューシート等の作成 (事業所管課室)

作成されたレビューシート等の点検 (行政事業レビュー推進チーム)

行政事業レビュー見える化サイトで公開

課題

- 作成要領や関連ガイドブックなどを参照しながら、レビューシート等を作成
- シートの項目数や参照文書の分量が多いため、的確な情報の入力には時間と労力を要する

課題

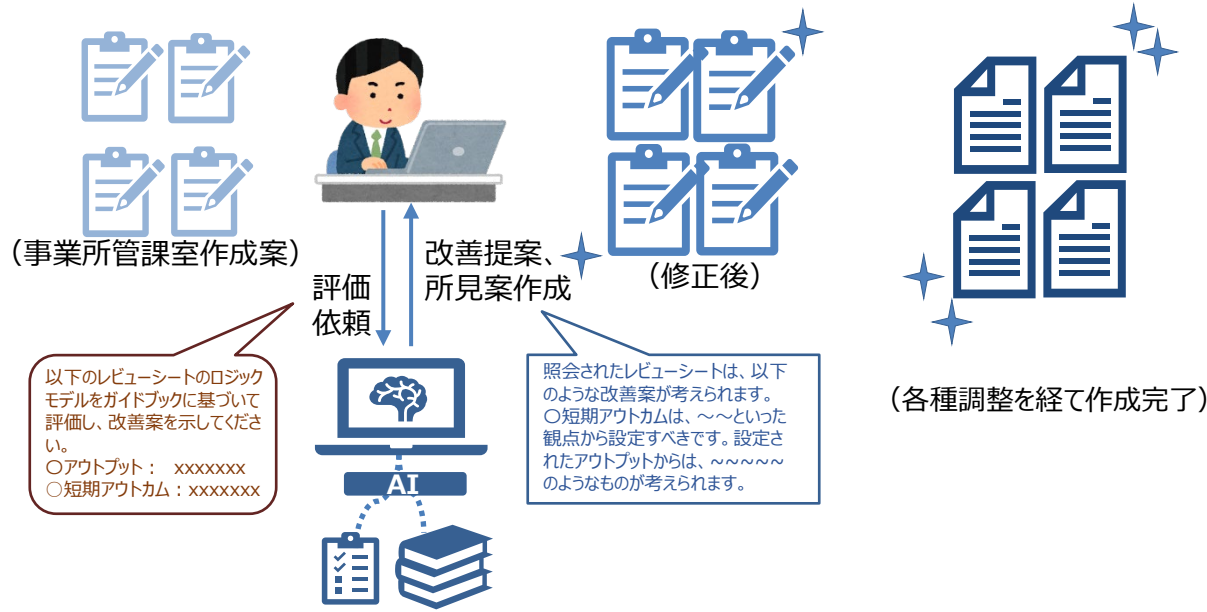
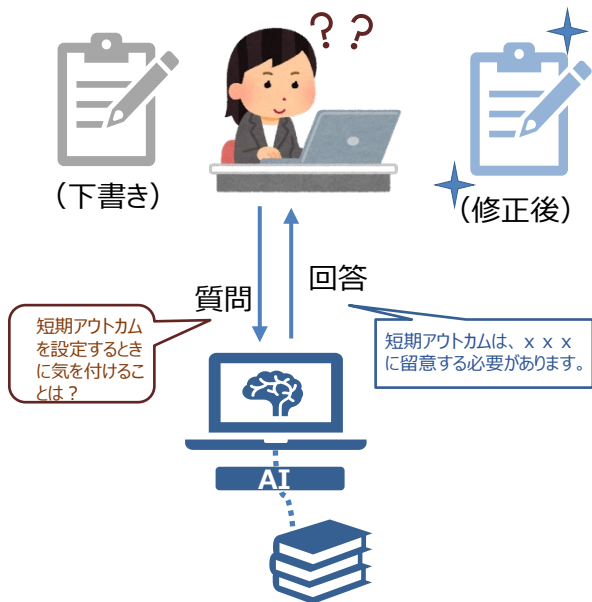
- 作成要領や関連ガイドブックなどを参照しながら、全レビューシート等を点検し、結果を入力
- シート数が大量かつ参照文書の分量が多く、的確な点検には時間と労力を要する

現状

令和10年度以降



行政事業レビュー見える化サイト RSシステム



行革事務局において実証を実施

複数の府省庁等の協力を得て実証を実施

行政事業レビューシート等の作成・点検におけるAI活用に向けた実証事業

1. レビューシート等の作成に係るAI実証（行革事務局において実施）

検証方法

- 作成要領や関連ガイドブック等をAIに与えた上で、ユーザーからの質問に回答するチャットボットを作成し、回答の精度確認及びAI利用の効果検証等を行う。

主な効果検証のポイント

- AIによる回答の精度及び内容の充実度
- 関連ガイドブック等の既存資料は参照データとして使えているか。

2. 作成されたレビューシート等の点検に係るAI実証（府省庁等に協力依頼）

検証方法

- 令和8年度にサマーレビューを行う全レビューシート等（約6,000シート）のうち、約1割（500～600シート）を対象とし、複数府省庁（及び外部有識者）にAIによる点検を依頼
- AI利用の効果を知るため、一部のシートについては、AIを利用しない従来の点検も実施し、AI利用時との作業時間や記載の充実度等を比較する

主な効果検証のポイント

- AIによる指摘・改善提案は、EBPMの観点からの点検業務を補助できる精度を保っているか。どのような指摘・改善提案があるとよいか。
- シート1枚当たりの作業時間はどのくらい短縮されたか。
- （AIによる記載内容の充実を前提として）AIと同程度の記載を人手で行うにはどれほどのコストがかかりそうか。
- AIの利用により、点検業務に取り掛かる心理的負担に変化はあったか。

3. 今後の主なスケジュール

令和8年4月	5～6月	7～8月	9月～
■ 参加府省庁の決定	■ 参加者向けに実証マニュアル配布、説明会の実施	■ AI実証実施 ■ 参加者用アンケート送付・回答依頼	■ アンケート及び実証結果の取りまとめ ■ 次期RSシステムに向けた要件定義への反映